

手をむすんで

H27.5

長野市
環境ビジョン



山にみどり、川に清流、谷に風、空に星、自然と和して発展するまち、人のくらし、みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

ながの環境活動コンテスト開催

審査員の鋭い質問に 発表者も真剣そのもの

4回目を迎えた環境団体大集合『ながの環境活動コンテスト』が、平成27年2月15日長野市生涯学習センターで開催されました。テーマは「環境保全活動の成果と環境活動でめざすもの」。コンテスト応募15団体は、6つの賞を目指し、活動をアピールしました。

各団体の持ち時間は発表時間3分、審査員との意見交換4分。審査員は一般公募の高校生・大学生・一般市民の合計30名。若い学生たちは発表者の活動に対して鋭い質問を投げかけ、会場内は審査員と発表者のやり取りで熱気に包まれました。

特別審査委員長として招いた京都の認定NPO法人環境市民の代表理事・榎本育生氏から「もう始まっていく未来」と題して世界の先駆的な環境活動の事例紹介が行われました。

今回の大会は企業の協賛を得、学校、NPOなど様々な団体との協働により実施し、若い世代に環境活動を伝えることができました。

特別審査委員長として招いた京都の認定NPO法人環境市民の代表理事・榎本育生氏から「もう始まっていく未来」と題して世界の先駆的な環境活動の事例紹介が行われました。



審査結果(入賞団体)

- ★ながの環境パートナーシップ会議賞：(有)まごころふれあい農園
- ★環境をよくするためにがんばっているで賞：(有)まごころふれあい農園
- ★わたしたちもやってみようで賞：P会議レジ袋使用削減プロジェクト
- ★夢があるで賞：P会議光害対策プロジェクト
- ★高校生が注目したで賞：P会議レジ袋使用削減プロジェクト
- ★大学生が注目したで賞：(有)まごころふれあい農園



おめでとうございます。

3つの賞を獲得した「まごころ農園」の久保田さんのメッセージ

「この度はこのような素晴らしい賞をいただきありがとうございます。私達は有機農業について発表をして賞をいただきましたが、審査員が高校生や大学生といった若い世代を中心としていた為、どういった言葉を選んだら伝わりやすくなるのか考えました。日頃人前で話す機会が少ない為、とてもいい経験になりました。これを励みに今後も頑張りたいです。」

審査員コメント

ながの環境パートナーシップでは、自治体や民間団体が創意工夫を凝らして自然豊かな信州を盛り上げていく姿を見ることができました。私は審査員を務めさせていただき、意欲的な皆さんの取り組みを感じ取る事ができた。いへん有意義な時間となりました。

信州大学工学部生

ながの環境活動コンテストでは、審査員30名のうち高校生や大学生が24名を占めました。若者中心の審査員構成としたのは、様々な団体等の取り組みを若者に知って欲しかったこと、また、それら団体等の人々に若者の意見を聴いてもらい今後の活動に生かして欲しかったためです。ながの環境パートナーシップ会議では、今後も、環境問題解決に向けて、自ら環境保全のため「行動する」だけでなく、「つなぐ」活動や「伝える」活動も積極的に行っていきます。

スペシャルチームリーダー弓場さん